

# 社会科における基礎知識の定着に関する研究

## —小・中の地理的な内容の関連と教材の工夫—

氣 谷 達 郎

「日本の都道府県や世界の国々がどこにあるのか」ということは、社会科の知識の最も基礎的なものである。また、社会生活においても様々な場面で必要な知識である。しかし、諸調査によると、この知識が十分身に付いているとは言えない現状が見られる。平成10年の教育課程審議会の答申では、「網羅的で知識偏重の学習ではなく、学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する」と示され、社会科の内容が削減されたが、それとともに暗記させることを躊躇する傾向になっていたとも思われる。

ここでは、小・中学校での日本の都道府県や世界の国々についての扱いについてまとめ、社会科学学習の基礎となる知識の定着に有効な教材の作成を目指した。都道府県や国々の名称の暗記にとどまることなく、ほかの場面でも推測したり、考察したり、活かしたりすることができるよう、関連する情報を有機的に結び付け、後に活用していくために、情報カード型の教材を作成することとした。

**〈キーワード〉 都道府県の名称と位置、主な国の名称と位置、カード型教材、地図の利用**

### I 主題設定の理由

新学習指導要領が公示され、小学校では平成23年度から、中学校では平成24年度から全面実施となる。社会科の改善の基本方針の一つとして、「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する」ことが挙げられた。基礎知識の重点化、精選が行われてきた現行の学習指導要領でも、決して知識の習得が軽んじられてきたわけではないが、改めて、先行実施されている「都道府県の名称と位置」などの基礎知識について身に付けさせることが明記された。

昨今、小・中連携が重視され、研究や実践が進められている。学習内容については、社会科においても、学習段階によって形態や視点などアプローチの仕方は変わるものの、従前より地名や歴史事象について繰り返し学習してきている。しかし、小学校で定着したはずなのに中学校で確認すると定着が不十分であるような場面がしばしば見られるのが実情である。

これらのことから、ここでは主に地理的な内容にかかわる基礎知識について、小・中の関連も考慮しながら、後々の学習にも活かされる実のある知識として定着させるために有効な教材の作成を目指し、本主題を設定した。

### II 研究の目標

社会科の地理的な内容を学習する上で基礎となる、都道府県や世界の主な国の名称や位置といった知識の習得について、各段階で身に付けさせるべき内容を整理し、それらの知識や概念を無理なく身に付けさせるための学習教材を作成する。

### III 研究の方法

都道府県の名称や位置に関する知識の定着については、過去の諸調査や独自調査の結果を分析し、正誤の傾向や身に付ける上での課題を踏まえて学習教材を作成する。世界の主な国の名称や位置について

は、どのような国々について扱うことが望ましいかを整理し学習教材を作成する。また、関連して、社会科の学習における地図の有効な活用場面について考察し、研修講座で提案する。

## IV 研究の内容

### 1 「47都道府県の名称と位置」について

#### (1) 「都道府県の名称と位置」の扱い

都道府県の位置や名称についての知識に関して、小学校第3・4学年の内容に「47都道府県の名称と位置」が加えられた（小学校学習指導要領）。これについては「我が国が47の都道府県によって構成されていることが分かり、都道府県の名称と位置を一つ一つ地図帳で確かめ、日本地図（白地図）上で指摘できるようにする」とされている（学習指導要領解説（以後 解説））。また、「47都道府県の名称と位置については各学年においても指導し、小学校修了までには確実に身に付け、活用できるようにする必要がある」（同）ことから、5学年、6学年での指導にも工夫が求められているといえる。

なお、中学校では「都道府県の名称と位置のほかには都道府県庁所在地についても取り上げること」（内容の取扱い）とされている。都道府県庁所在地についてもその歴史、立地、人口、交通など多様な視点からとらえ、小学校で身に付けた都道府県についての知識を整理しながら膨らませて知識として身に付けることが必要である。

都道府県の名称や位置、都道府県庁所在地名などは、学年、内容を問わず様々な場面で扱うことになる。これらは、社会的事象を具体的にとらえ、理解したり考察したりするための基礎知識である。身に付けた知識を活用していくためには、単に〇〇県の県庁所在地は〇〇市と暗記することだけに終始することのないよう、都道府県の名称と位置をベースにして、新しく学んだこと、調べたことなどに関連させながら情報量を増やしていくことが必要であると考えられる。

#### (2) 「都道府県の名称と位置」に関する知識の現状

国立教育政策研究所が平成18年度に実施した「特定の課題に関する調査（社会）」では、小学校第6学年を対象に47都道府県の位置と名称についての調査が行われた。なお、この調査では中学校第3学年を対象に15都道府県について同様の調査が行われている。これらの調査では「都道府県名を示し、地図中から当てはまる位置を選択し指摘させる」調査と、「地図中で位置を示した都道府県の名称を選択し指摘させる」調査が行われた。また、今回、福井県内の小学生（福井市内の小学校第4・5・6学年各1学級）を対象に同様の調査を実施した。

両調査の結果、正答率が高い都道府県、低い都道府県は表1、2（次頁）のとおりであった（県内調査の結果の概要は末尾資料1を参照）。県内児童を対象とした調査結果を全国の結果と比較すると、福井県や隣県である石川県の名称や位置がよく身に付いているという特徴が見られるが、正答率の高い都道府県、低い都道府県についてはおおむね全国と同じような傾向である。正答率の低い都道府県について誤答を分析すると、特定の都道府県間で誤りやすい傾向が見られることが分かる。具体的には、東北の4県（岩手県、宮城県、秋田県、山形県）、北関東の3県（茨城県、栃木県、群馬県）、山陰の2県（鳥取県、島根県）、山陽の2県（岡山県、広島県）、四国の4県（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）、また九州地方内では、北部の3県（福岡県、佐賀県、長崎県）、中央部を中心とした4県（福岡県、熊本県、大分県、宮崎県）の中での誤りが多く見られた。これらを含めて、いわゆる8地方区分内での混同がほとんどであり、このことが学習上の一つのかぎになると考えられる。なお、第4学年では、先行実施により一通り都道府県の位置を確認する活動をしてはいるものの、福井県、隣県の石川県、位置に特徴のある北海道、青森県、沖縄県を除いては、正答率は低い結果となった。石川県以外の福井県に隣接する府県の正答率も低く、福井県の学習をする際に留意が必要である。

**表1 都道府県名から地図上の位置を選ぶ調査** \* ( ) は中学校第3学年

正答率が高い都道府県			正答率が低い都道府県		
全国調査		県内調査	全国調査		県内調査
北海道	99.8% (99.2%)	北海道 100%	福井県	39.9% (47.7%)	岡山県 43.5%
沖縄県	97.2%	沖縄県 100%	徳島県	39.9% (48.3%)	徳島県 48.2%
青森県	93.5% (96.3%)	福井県 96.5%	宮崎県	40.1%	福岡県 48.2%
新潟県	82.2%	青森県 95.3%	島根県	40.2% (54.2%)	宮崎県 49.4%
東京都	72.6% (85.1%)	石川県 91.8%	岡山県	41.3% (54.5%)	佐賀県 51.8%
秋田県	70.3%	岩手県 83.5%	福岡県	41.8% (62.6%)	大分県 52.9%

**表2 地図上の位置から都道府県名を選ぶ調査** \* ( ) は中学校第3学年

正答率が高い都道府県			正答率が低い都道府県		
全国調査		県内調査	全国調査		県内調査
北海道	99.9% (99.1%)	北海道 100%	島根県	39.9% (42.5%)	宮崎県 41.2%
沖縄県	96.4%	沖縄県 95.3%	徳島県	40.2% (43.1%)	岡山県 43.5%
青森県	93.8% (97.0%)	福井県 91.8%	福井県	41.4% (42.9%)	徳島県 43.5%
新潟県	82.0%	石川県 90.6%	宮崎県	41.8%	福岡県 44.7%
東京都	73.9% (82.9%)	青森県 89.4%	岡山県	42.1% (45.2%)	広島県 48.2%
岩手県	70.3%	新潟県 74.1%	鳥取県	42.7%	長崎県 48.2%
			福岡県	42.7% (54.9%)	熊本県 48.2%

また、総合初等教育研究所が平成19年2～3月に実施した「社会についての基礎的知識の習得に関する調査」では、第5学年、6学年を対象にして47都道府県名についての調査が行われており、学年による結果の相違が報告されている。第5学年、第6学年の結果を比較すると、次の表3のような差異が見られる。

**表3 第5学年、第6学年の正答率の差異**

第6学年の方が正答率が高い都道府県				第6学年の方が正答率が低い都道府県			
5年	6年	正答率の差		5年	6年	正答率の差	
滋賀県	67.4%	→ 72.1%	+4.7ポイント	茨城県	62.3%	→ 55.0%	-7.3ポイント
広島県	60.0%	→ 61.4%	+1.4ポイント	福島県	60.6%	→ 54.5%	-6.1ポイント
山口県	62.5%	→ 63.6%	+1.1ポイント	徳島県	54.3%	→ 48.2%	-6.1ポイント
奈良県	54.2%	→ 54.9%	+0.7ポイント	岩手県	80.9%	→ 74.9%	-6.0ポイント
佐賀県	52.6%	→ 53.0%	+0.4ポイント	山形県	60.5%	→ 54.9%	-5.6ポイント
青森県	96.5%	→ 96.8%	+0.3ポイント	宮城県	62.3%	→ 56.7%	-5.6ポイント

この結果を、表4(次頁)に示した第6学年の学習内容(主に歴史的な内容)と照らし合わせると、第6学年で扱うことが多い都道府県については、5年生の段階より定着率が高まる傾向にあることが分かる。一方で、第6学年で正答率が下がっている都道府県のうち上位のものには、歴史事象の舞台として扱われていないという共通点がある。すなわち、様々な場面で、都道府県の名称や位置について繰り返し触れることが、知識の定着に大きくかかわっていると考えられる。

これらのことから、学習活動の中で都道府県の名称や位置の知識を身に付けさせるためには、

- ・都道府県についての概念を学習する段階では、地方ごとにまとめてとらえさせたり、隣接する都道府県を確認させたりすること
- ・学習内容に関連付けて扱い、それを広げながらほかの場面(後の学習)でも活かすことができる知識として身に付けさせること

をポイントとして挙げることができる。

**表4 第6学年用教科書の本文および主な資料における各都道府県に関する記述の有無（T社）**

本文中に記述のある都道府県	資料中に記述のある都道府県	記述のない都道府県
北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、△滋賀県、京都府、大阪府、△奈良県、△広島県、△山口県、福岡県、△佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県	△青森県、▼岩手県、▼宮城県、▼福島県、▼茨城県、栃木県、群馬県、富山県、石川県、兵庫県、和歌山県、島根県、岡山県、香川県、愛媛県	秋田県、▼山形県、新潟県、山梨県、鳥取県、▼徳島県、高知県、宮崎県
<p>△：表3において、第6学年の方が正答率が高い6都道府県 ▼：表3において、第6学年の方が正答率が低い6都道府県</p>		

なお、都道府県の名称や位置について身に付けさせる時期については、2007年度に（社）日本地理学会地理教育専門委員会が実施した「高校生地理認識調査」における報告がある。

幾つかの国や都道府県の位置に関する知識（10か国、10都県の位置を地図上に記した番号から選択する問題）について、高校で地理を履修したか否かによる正答率を集計している。これによると、都道府県の位置についての正答率は右の図1のようになっている。高校での学習内容によるところもあるが、学習状況による差は小さく、小中学校段階で定着させることの意義が大きいといえることができる。（ただし、同じ問いによる大学生への調査では、いずれの都道府県についても3.2～8.3%の幅で、高校で地理を履修した者の正答率が上回っており、「調査結果の概要」の中で「高校における地理の履修の継続によって、場所をキーにする情報の整理能力が増した結果であると考えられる」としている）

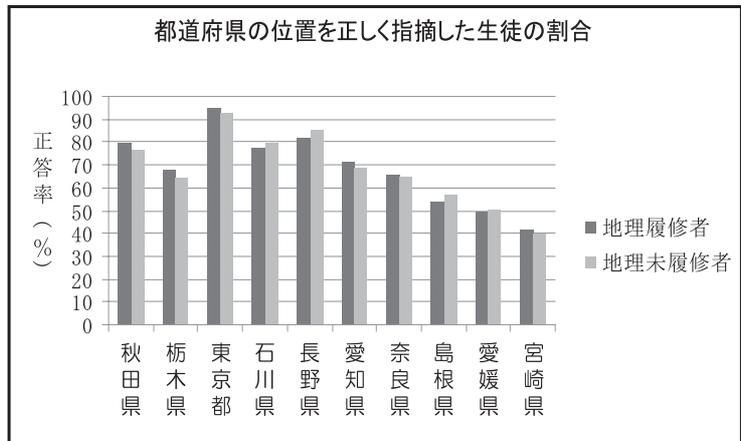


図1

(3) 教材の作成

以上のような現状、課題を踏まえ、この研究においては、社会事象に対する関心を高めながら都道府県についての知識を身に付けさせるためにカード型の教材を作成することとした。カードの基となる情報として右の表5の内容を準備し、データベースソフト（Microsoft Access）で管理することで、目的に合わせてデータを適宜選択し、自由にデザインしてカードを作成することができるようにした。必要に応じてカードの片面に、あるいは両面に出力することにより、様々な場面での利用が可能である。また、カードの大きさは、各小学校で利用されているマジックボックスを使って活用できるものとした。

県内児童を対象に実施した調査からは、第4学年では位置に特徴がある（北端、南端など）都道府県以外の認識が低く、また、都道府県のおおよその位置（どのあたりにあるか）を答えられない児童も多いことが分かった。誤答のうち、他の地方（8地方区分）にある都道府県について答えた割合は、第5・6学年では38%であったのに対して、

社会事象に対する関心を高めながら都道府県についての知識を身に付けさせるためにカード型の教材を作成することとした。

**表5 データベース化した内容**

・都道府県名
・地方区分名
・都道府県庁所在地名
・面積、人口に関するデータ
・都道府県の位置
・都道府県の形（図）
・都道府県章（マーク）
・主な生産物（食料）
・主な生産物（工業製品）
・歴史上の出来事
（教科書に出てくる地名を基に）
・都道府県の木、花、鳥など

第4学年では78%に達していた。この段階では、我が国は47の都道府県に分けることができることや、それぞれに名称があることなどを、ゲーム的な要素を盛り込みながら理解させたり、後に近隣の都道府県と混同しないように、地域（地方）ごとにまとめて確認させたりするような活動が有効である。

第5・6学年においては、都道府県の名称や位置を身に付けさせることに特化した学習を繰り返すことは求められていないが、それぞれの学習内容と関連させて広げながら恒常的に意識させることで定着させたい。

なお中学校においては、都道府県庁所在地を扱うことが必要になるほか、日本の諸地域の地域的特色をとらえさせる学習に活かすことができる特徴ある事象を盛り込んだり、歴史的事象についての内容を充実させたりするなどの工夫ができる。

◆小学校中学年での活動例

- ・都道府県の形や位置を片面に示し、都道府県名をその裏面に示す。マジックボックスを使って都道府県名を指摘する（図2）。
- ・都道府県名のカードとその位置を示したカードを、トランプの神経衰弱の要領でペアにする。正誤については地図帳で形や位置を確認させる。同一地方のカード（例えば関東地方の7都県）だけを使えば、短時間の活動とすることができる。また、課題となっている近隣県との混同が減少すると考えられる。

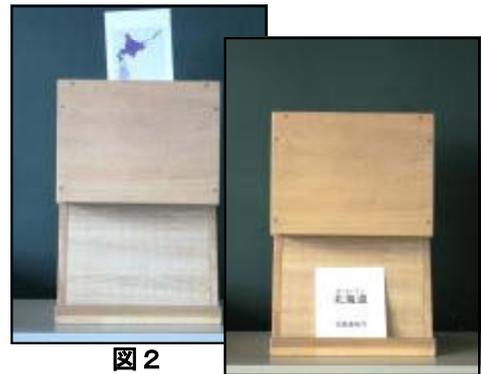


図2

◆小学校高学年での活動例

- ・都道府県の主な農産物や水産物、特色ある工業製品が示されたカード（図3）を見て、都道府県名を指摘させる。我が国の食料生産や工業生産の学習と結びつけて都道府県の名称や位置を確認することにより、都道府県についての知識を膨らませることができる。（第5学年）
- ・歴史上の出来事の舞台となった場所や歴史上の人物に関わる場所が示されたカード（図3）を用いて、都道府県に関する知識と関連させる。都道府県についての知識が定着するだけでなく、時間軸だけでなく空間軸でもとらえることで歴史的事象を大きくつかむことができる。（第6学年）



図3

◆中学校での活動例

- ・都道府県庁所在地、面積や人口などの基礎データ、都道府県章や都道府県の木・花・鳥などを示したカード（図4）を用いて、クイズやゲームを行う。各都道府県の特徴をより広い視野でとらえさせることができる。
- ・日本を幾つかの地域に区分して地域的特色をとらえさせる学習では、生徒が各地域内の都道府県について視点を絞って調査した内容をデータ化しカードを作成する。この活動は考察の仕方に応じて地域の特徴をつかむ上で有効である。

小・中学校ともに、児童、生徒にオリジナルのカードを作成させることは、関心を高め、知識を整理しながら身に付けさせるためには有効である。また、都道府県名を伏せてデータ（情報）のみを示した複数のカードから、同一都道府県にあてはまるものを集めるような活動を取り入れることで、学習内容が関連付けられ、深まっていくものと考えられる。



図4

## 2 「主な国の名称と位置」について

### (1) 扱うことが適切であると考えられる国々

主な国の名称と位置については、小学校第5学年において、「例えば、近隣の諸国を含めてユーラシア大陸やその周りに位置する国々の中から10か国程度、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、オーストラリアなどの大陸やその周りに位置する国々の中からそれぞれ2か国程度を選択することが考えられる」（解説）と示されている。これに従えば18か国程度の名称と位置を確認することとなる。また、「我が国は周囲が海に囲まれた島国であることなど日本列島の特色を理解できるようにする」ことや、「我が国とそれらの国との位置関係を確認させ、産業に関する学習などにおいて活用できるようにする」こと、「領土については、北方領土の問題についても取り上げ」ることなどを踏まえる必要がある。すなわち、我が国と地理的条件が異なる国や貿易による結び付きが強い国、また、領土をめぐる問題がある国などを意識しておく必要がある。さらに、第6学年においては、我が国と経済や文化などの面でのつながりが深い国々の人々の生活の様子を調査するが、ここでは、「例えば、我が国とつながりが深い国から教師が三か国程度取り上げ、その中から児童一人一人が自らの興味・関心や問題意識に基づいて一か国を選択して自分の力で調べることができるようにすること」と示されていることも考慮しなければならない。

中学校地理的分野においては、世界の4分の1から3分の1程度の国々の名称と位置を身に付けることとされている。すなわち、50～65か国程度の国々について取り上げることとなる。ここでは「様々な観点から世界をとらえる目安となる国を取り上げる」（解説）と示されている。また、「生徒が、小学校社会科の学習や日常生活の中で習得した世界の国々に関する知識を十分に活かし、整理して拡充するようにする」とされている。新聞の活用と結び付けて、世界の国々に目を向けさせながら知識を拡大させたい。

これらを踏まえると、小学校第5・6学年、中学校において、次の表6のような国々について扱うことが考えられる。これらの国々で、小学校では18か国、中学校では50の国や地域となる。

表6 「主な国」として取り扱うことが考えられる国々

小5	近隣の諸国 ユーラシア  北アメリカ 南アメリカ アフリカ オーストラリア	中華人民共和国(*1)、大韓民国(*1)、ロシア連邦(*2)（北方領土を扱う上でも必要）、サウジアラビア(*1)、ドイツ(*2)、イギリス(*2)、オランダ(*2)、モンゴル、フィリピン、インド アメリカ合衆国(*1)、カナダ ブラジル(*1)、チリ 南アフリカ共和国、エジプト オーストラリア(*1)、ニュージーランド
小6	日本とのつながりが深い国	(中国)、(韓国)、(サウジアラビア)、(アメリカ)、(ブラジル)、(オーストラリア) などから選択
中地理	面積の大きな国	ロシア連邦(*3)、カナダ(*3)、アメリカ合衆国(*3)、中華人民共和国(*3)、ブラジル(*3)、オーストラリア(*3)
	人口の多い国	(中国)、インド(*3)、(アメリカ)、インドネシア、(ブラジル)、パキスタン、バングラデシュ、ナイジェリア、(ロシア)、(日本)、メキシコ
	日本とのかかわり(貿易)	(アメリカ)、(中国)、大韓民国(*3)、サウジアラビア(*3)、(オーストラリア)、タイ、ドイツ(*3)
	国名の由来に特徴	(インド)、マレーシア、カンボジア、フィリピン(*3)、シンガポール、シリア
	ニュースで頻繁に取り上げられる国	<新聞1面の記事の中によく出てくる国(*4)> (アメリカ)、(中国)、朝鮮民主主義人民共和国、(カナダ)、(韓国)、南アフリカ共和国(*3)、ギリシャ、オランダ(*3)、イギリス(*3)、イラン、デンマーク、フランス、(ロシア連邦)、(オーストラリア)、(ドイツ)、アイスランド、(インド)、(シンガポール)、ベルギー、(メキシコ)、イスラエル、スロベニア、チェコ、パラグアイ、(ブラジル)
歴史的分野との関	<教科書の索引に掲載されている国>	

連で扱うべき国	(中国)、(韓国)、(インド)、モンゴル <sup>(※3)</sup> 、ポルトガル、スペイン、(ドイツ)、(オランダ)、ベトナム、(イギリス)、(ロシア)、(アメリカ)、(フランス)、オーストリア、イタリア <教科書の索引には掲載されていないが、本文中に出てくる国> エジプト <sup>(※3)</sup> 、(北朝鮮)、(フィリピン)、(カンボジア)、(タイ)、(オーストラリア)、(チェコ)、スロバキア、ポーランド、セルビア、トルコ、(デンマーク)、ノルウェー、(ベルギー)、イラク 国ではないが扱いが必要な地域 台湾、香港
---------	--

- ・表中(※1)は小学校第6学年の「我が国とつながりが深い国」の例として教科書で採り上げられている国、(※2)は小学校第6学年の「日本の歴史」の内容で教科書の本文中に記述のある国である。その他、小学校においては、オリンピックの開催国やスポーツ・文化などでなじみがあると考えられる国を挙げた。
- ・中学校における(※3)は、小学校で採り上げた国である。(※4)では、平成22年4月～6月の新聞(生徒に身近であると考えられる地方紙とした)の第1面の記事で多く取り上げられた国を挙げた(一つの記事につき1回と数えた)。なお、この期間には沖縄県の普天間飛行場の問題、アイスランドの火山噴火、カナダでのG8(G20)、サッカーワールドカップの開催などが記事として取り上げられている。ちなみに、取り上げられた回数は次の通りである。アメリカ(登場回数70)、中国(18)、北朝鮮(12)、カナダ、韓国、南アフリカ(10)、ギリシャ(7)、オランダ(6)、イギリス、イラン、デンマーク、フランス、ロシア(5)、オーストラリア、ドイツ(4)、アイスランド、インド、シンガポール、ベルギー、メキシコ(3)、イスラエル、スロベニア、チェコ、パラグアイ、ブラジル(2)
- ・(国名)は既出の国。

(2) 教材や学習活動の工夫

主な国の名称と位置を扱う際には、小学校においては「我が国の国旗を尊重するとともに、外国の国旗を尊重する態度を育てるようにする」(解説)ことが留意点とされていることから、国名やその位置に加えて国旗についても触れることが求められる。また、地図帳の活用の面から、地図帳のどこにその国があるかを説明できるようにすることも指導の工夫として考えられる。また、中学校においては、「地図上の位置を緯度・経度を用いて表せるようにする」「州やそれらを幾つかに区分した地域など、世界を様々な地域に区分けしてとらえられることを理解させる」(解説)ことから、地球上の位置や地域区分についても意識しながら身に付けさせることが必要である。この際、例えば、「冬季オリンピックの参加国やメダル獲得国(図5)」とその国の気候を関連付けて考察する活動などは、知識の活用を促す活動となり得る。

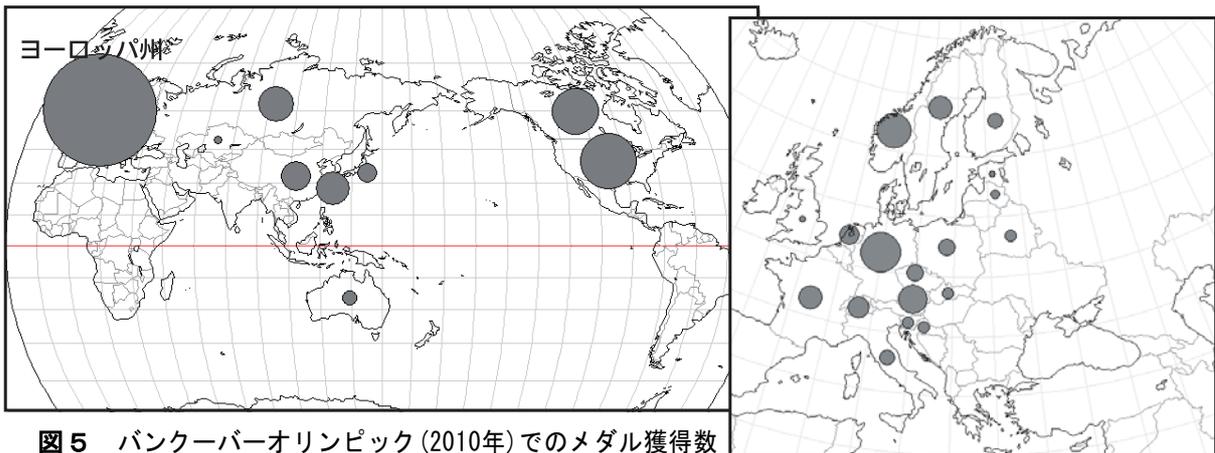


図5 バンクーバーオリンピック(2010年)でのメダル獲得数  
 データ出典 <http://www.vancouver2010.com/> CraftMAP により作成

これらのことから、世界の国々について知識として身に付けさせるためには、その発達段階に応じて、国名、位置(大陸や州・地域、緯度・経度)、国旗、国の形、基本データ(面積、人口、言語など)を関連付けさせることが必要であり、それぞれの国をグループ分けするなどの作業が効果的であるといえる。したがって、「都道府県の名称と位置」と同様の手法で、諸情報を記載したカードを作成しその利用を考えた(図6)。表面に書かれた国旗や基本データなどをヒントにして裏面に書かれ

た国名を指摘する活動、国旗や基本データ、国の形などが書かれたカードから、同じ国に当てはまるものを指摘する活動などが考えられる。

また、発展的には、扱う国の枠を超えて、児童・生徒が主題をもって世界の国々を探したり、調べたりすることも考えられる。例えば、新聞に載っている大相撲の番付表に見られる国について調べたり、サッカーワールドカップの予選リーグの4か国（原則として異なる大陸の国で構成されている）について、グループごとに位置や国旗を確かめたりする活動が考えられる。

また、知識を活かす活動としては、児童・生徒が様々な国について調べ、得た情報を基にして、国名を特定できるヒントを作っていくような活動が有効であると考えられる。このような活動は、都道府県に関する学習についても活かすことができる。



図6

例1	ヒント1	「南アメリカ大陸にあります。」	(位置に関するヒント)
	ヒント2	「世界一のコーヒー豆の生産国です。」	(国の特徴などに関するヒント)
	ヒント3	「ポルトガル語が使われています。」	(生活・文化や時事に関するヒント)
例2	ヒント1	「赤道が通っています。」	(位置に関するヒント)
	ヒント2	「青・緑・黄・白の4色の国旗です。」	(国の特徴などに関するヒント)
	ヒント3	「2016年にオリンピックが開かれます。」	(生活・文化や時事に関するヒント)

### 3 地図や地球儀の活用について

#### (1) 小・中の関連

各学年での地球儀や地図の活用については、表7のように記述されている（解説）。なお、小学校第3学年及び第4学年の内容(1)において、方位や主な地図記号について扱うことが明記された。

表7 地球儀、地図の活用

	具体的内容	留意点
小5	世界の主な国を取り上げ、その国の名称と位置を地図帳や地球儀などで調べ、白地図などに書き表す。	地図帳や地球儀などを活用しながら取り上げた国の名称と位置を確認するようにする。
小6	調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べる。	地図帳や地球儀を活用する能力を育てるとともに、世界の国々や地域に関心をもつようにする。地図帳や地球儀を用いて我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の名称と位置を確認したり、日本から見た方位などを調べたりする。
中地理	地球儀や地図帳の読み取りを中心とし、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを基に、世界の地域構成を大観させるために活用する。  地図帳の適切な活用方法を身に付けさせる。	地球儀で地球上の位置関係や陸地面積、形状を正しくとらえる学習を行う。  世界地図については、面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図など目的に応じた様々な地図があることを取り上げ、それらの特色に留意した読み取りを中心とする。

#### (2) 指導法の考察

地図や地球儀は、目的や用途に応じて様々なものが作成され、また市販されているが、授業で活用する際に学習内容や学習活動にうまく合うものを用意することはなかなか難しい。目的に応じて適し

たものを利用することにより、地図や地球儀を利用することの意義が分かり、それが地図や地球儀を活用しようとすることに結び付く。そこで、地域調査に関する小学校社会科研修講座のフィールドワークに合わせて、地図活用の可能性について考える内容を取り入れてみた。併せて、小学校のそれぞれの段階で身に付けさせたい地図に関する知識や技能についても整理した。(末尾資料2を参照)

研修講座のスケジュールの都合もあり、この内容はフィールドワークの後に付加する形で実施したため、実際に複数の地図を持って街なかを歩くような実践的な研修とならなかったことが大きな反省点であり、それぞれの地図の特徴や活かし方について実感できる活動とならなかったことが残念であった。作成、配付した資料については『地図活用のポイント』がよかった。中学年の町たんけんなどに利用できると思った」「3年生に地図を持って歩かせることは難しいと思っていたが、縮尺や地図の情報に気をつければ、使えそうだった」といった評価が得られた。

## V 研究のまとめ

ここでは、主に国名・都道府県名や地図についての知識・技能の定着に関する学習教材についてまとめた。これらは、小学校中学年から中学校にかけて、地理的事象を多面的・多角的に学習する上での根幹をなすものである。また、歴史的事象や今日の政治・経済、社会的課題の背景について学ぶ上でも必要な知識である。このような内容について、どの段階でどの程度身に付けさせるべきかについて整理したことは、社会科の学習全体を関連付けたり、それらを更に膨らませたりしていく上で、意義あることだと感じている。

カード形式の教材を用いることは、興味をもって知識を身に付けさせるという点では大変効果的であると考えられる。しかし、それをより活かすためには、単に語句を暗記するだけのための教具になってしまわないような工夫が必要である。また、スパイラル的に学習内容を深めていくためには、学びが単発的にならないように、繰り返し活用することができるということも大事なポイントである。これらのことは、カードそのものの内容についても、その使い方についてもいえることである。知識を身に付けさせることだけを目的とするのではなく、活用して思考したり判断したりすることに結び付くものでなければならない。児童・生徒が、カードを見ながら「なぜ○○なのだろう」という疑問をもったり、「○○についてもっと知りたい」という意欲を感じたりするものであることが重要である。この点では、今後更にカードの内容はもとより、より有効な使い方についての検討、検証をしていくことが必要である。現時点では、作成した教材の効果を実践の場で確認することができていないことが大きな反省点となっているが、今後教室で使いながら効果を測るとともに、教材研究支援システムで公開するなどして御意見をいただき、随時改良していきたい。

最後に、調査に御協力いただきました先生方、研修講座で貴重な御意見をいただきました先生方に、心より感謝申し上げます。

### 《引用文献》

○(社)日本地理学会地理教育専門委員会(2008)『大学生・高校生の地理的認識の調査報告』、p4

### 《参考文献》

- 国立教育政策研究所(2008)『特定の課題に関する調査(社会)調査結果、集計結果』
- (財)総合初等教育研究所(2008)『社会についての基礎的知識の習得に関する調査(調査結果データPDF版)』
- 文部省(1999)『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版
- 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社
- 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版

**資料1 都道府県の名称と位置に関する調査結果（数値の単位は%）**

都道府県名	都道府県の位置を指摘させる		都道府県名を指摘させる	
	正答率	誤答（多かったもの）	正答率	誤答（多かったもの）
北海道	100.0		100.0	
青森	95.3		89.4	
岩手	83.5	秋田(4.7) 宮城(3.5)	72.9	秋田(9.4) 福島、山梨(3.5)
宮城	63.5	山形(7.1)	65.9	岩手(4.7) 茨城(3.5)
秋田	78.8	宮城(3.5)	71.8	岩手(7.1) 山形(3.5)
山形	68.2		69.4	宮城(4.7) 栃木(3.5)
福島	70.6	香川(3.5)	64.7	埼玉(4.7) 茨城(3.5)
茨城	61.2	宮城(5.9) 栃木(4.7) 群馬(3.5)	56.5	栃木(5.9) 群馬(3.5)
栃木	67.1	群馬(7.1) 茨城(5.9)	57.6	茨城(4.7) 群馬、埼玉(3.5)
群馬	58.8	山梨、鹿児島(4.7) 秋田、栃木(3.5)	58.8	栃木(5.9)
埼玉	60.0	栃木(4.7) 茨城、東京、山梨(3.5)	61.2	東京(4.7)
千葉	75.3		71.8	神奈川(4.7) 長野(3.5)
東京	68.2	埼玉(5.9) 長野(3.5)	69.4	香川(5.9)
神奈川	61.2	愛媛(3.5)	61.2	
新潟	74.1	富山(3.5)	74.1	茨城(3.5)
富山	75.3		71.8	
石川	91.8		90.6	
福井	96.5		91.8	
山梨	57.6	茨城(7.1) 宮城、愛知(3.5)	57.6	群馬、大阪(3.5)
長野	65.9	山梨(3.5)	64.7	
岐阜	68.2	京都(5.9) 長野(3.5)	68.2	
静岡	62.4	愛知、愛媛(3.5)	61.2	和歌山(3.5)
愛知	61.2	静岡(3.5)	56.5	三重(3.5)
三重	61.2	奈良(8.2) 山形、和歌山(3.5)	60.0	福島、奈良、香川(3.5)
滋賀	77.6	岐阜(3.5)	68.2	
京都	68.2	岐阜(7.1)	67.1	
大阪	62.4	兵庫(5.9) 長野、京都(3.5)	56.5	和歌山、愛媛(3.5)
兵庫	57.6	三重、岡山(3.5)	54.1	大阪(4.7) 熊本(3.5)
奈良	60.0	三重(7.1) 京都、岡山(3.5)	56.5	三重(3.5)
和歌山	62.4	静岡(5.9) 大阪(3.5)	52.9	大阪(4.7) 三重(3.5)
鳥取	58.8	島根(9.4) 広島(4.7) 栃木、岡山(3.5)	52.9	島根(10.6)
島根	58.8	鳥取(8.2) 徳島(3.5)	56.5	鳥取(9.4)
岡山	43.5	広島(8.2) 福岡(5.9) 大分(3.5)	43.5	広島(8.2) 兵庫(3.5)
広島	55.3	岡山(8.2) 高知(4.7) 兵庫(3.5)	48.2	岡山(7.1)
山口	60.0	島根(3.5)	54.1	
徳島	48.2	愛媛(7.1) 香川(4.7) 高知、宮崎(3.5)	43.5	愛媛(4.7) 香川、高知(3.5)
香川	58.8	徳島(4.7) 愛媛(3.5)	51.8	徳島(4.7)
愛媛	56.5	徳島(8.2) 高知(5.9) 大分(3.5)	54.1	徳島、高知(4.7)
高知	56.5	愛媛(8.2) 徳島(7.1) 和歌山、香川(3.5)	50.6	香川(4.7) 愛媛(3.5)
福岡	48.2	大分(5.9) 福島、岡山、山口(4.7)	44.7	山梨(3.5)
佐賀	51.8	長崎(7.1) 福岡(4.7) 島根(3.5)	50.6	大分(4.7)
長崎	58.8	佐賀(4.7) 山口、熊本、大分、宮崎(3.5)	48.2	佐賀(4.7)
熊本	56.5	宮崎(5.9) 大分(4.7) 福岡(3.5)	48.2	大分(4.7) 宮崎(3.5)
大分	52.9	福岡(9.4) 宮崎(5.9) 佐賀、熊本(4.7)	50.6	宮崎(5.9) 熊本(3.5)
宮崎	49.4	福岡(4.7) 神奈川、熊本、大分(3.5)	41.2	長崎、熊本(4.7) 大分(3.5)
鹿児島	71.4		64.7	熊本(3.5)
沖縄	100.0		95.3	

調査対象 福井市内の小中学校児童85名（第4学年24名、第5学年33名、第6学年28名）

資料2 小学校社会科研修講座における配付資料

地図活用のポイント

○地図の活用場面の例

	地図を使った活動の例	身に付けさせたい知識や技能	活用できる地図など	
学校のまわり	たんけんの計画 学校のまわりのたんけん 絵地図にまとめる 高い所からながめる	・探検の計画を立てる ・探検の結果を絵地図にまとめる ・絵地図から共通の記号を使った地図を作る	・四方位（八方位） ・縮尺（スケールバーの利用） ・ルートの説明の仕方 ・四方位（八方位） ・記号で表すことのよさ →共通記号の意義	衛星写真・航空写真 鳥瞰図 立体地図 大縮尺の地図 イラストマップ 住宅地図 校区の白地図
市の様子	市の特色のある場所の様子を調べる 土地の様子 土地利用の様子 交通の様子 *古くから残る建造物	・地図から地域による違いを見つける ・特色のある地域の様子を白地図に書き表す	・四方位（八方位） ・主な地図記号の意味（土地利用、公共施設、交通） ・等高線の意味 ・縮尺	衛星写真・航空写真 立体地図 土地利用図 電子地図 大縮尺の地図 地形図、旧版地形図
県の様子	*地図帳を広げて（移行措置により付加）	・福井県やほかの都道府県の名称や位置を調べて、白地図に記入する	・地図帳の利用（索引の使い方） ・福井県の位置 ・47都道府県の名称と位置 *様々な活動を通して無理なく身に付けさせる	地図帳 日本全図 都道府県境入りの白地図
	市・町の様子	・自分たちが住んでいる市（町）を中心に、県内における位置を白地図に表す	・自分たちが住んでいる市・町の位置 ・ほかの市・町との位置関係 ・八方位	市町境入りの県の白地図
	土地の様子 交通の様子	・福井県内の各地域の地形や土地利用の様子、交通網を調べて、白地図にまとめる	・県内諸地域のおおまかな地形 ・八方位 ・主な交通網の名称や経路（道路、鉄道、航路） ・隣県とのつながり方	衛星写真・航空写真 鳥瞰図 土地利用図 県の地図 地形図 県の白地図
わが国の産業の様子	農業や水産業	・食料品の産地を調べて白地図に記入する ・米作りのさかんな（田が多い）地域はどのような場所かを調べる（平野、川） *ほかの農業や漁業についても同様の活動が考えられる	・47都道府県の名称と位置（主な国の名称と位置） ・凡例の活用 ・土地利用、土地の高低の様子 ・自然と農業とのかかわり *地図帳の巻末資料を読み取り活用する	日本全図 都道府県境（国境）入りの白地図 土地利用図 地域図、日本全図
	工業	・自動車工業のさかんな町の様子を地図から探る ・工業地域の分布を調べる	・工場の分布や交通の様子の読み取り ・工業地域の発達要件	主題図（例えば豊田市の製造品目別工場の分布図、主な工業地域の分布図など）
わが国の国土の様子	主な大陸と海洋 主な国の名称と位置 わが国の位置と領土 国土の地形や気候の概要	・大陸名・海洋名や主な国の位置を地球儀で調べて、白地図にまとめる ・特色ある地域の人々の生活に影響を及ぼしている地形の特色や気候の特色を探る	・大陸や海洋の名称と位置、主な国の名称と位置 ・地球（地球儀）上の位置と、地図上の位置との違い	地球儀 世界全図 国境入りの白地図 土地利用図 主題図（気温、降水量、積雪量など）
わが国の歴史上の主な事象	・教科書に書かれている地名を地図帳で調べる（学習するときに調べることで、興味・関心を高める）	・歴史上の出来事の起こった場所（例えば戦国時代では、合戦の様子や武将の本拠地の位置関係をつかませたり、通った道筋を選んだ理由を考えさせたりする）	日本全図 地域図 地形図 土地利用図	

○地図の縮尺と授業での活用 目的に応じて適切なものを（できるだけ大縮尺の地図を）

縮尺	特徴など	60 cm（児童の机の幅） で表すことができる距離	活用が有効な場面	
500分の1 1,000分の1	・マンホールや公衆便所なども記載されている	約 300 m	「火事がおきたら」 「安心してらせるために」 「水はどこから」	校 区 の 探 検 ↑ ↓ 市 町 の 概 観
1,500分の1	・市販の住宅地図の縮尺 ・消火栓の位置が記載されている	約 600 m 約 900 m		
5,000分の1	・都市計画図の縮尺	約 3 km	探検や施設訪問のルートマップ	
10,000分の1	・建物の形や道幅などが分かりやすい （国土地理院発行のものは、 県内では福井市中心部のものだけ）	約 6 km	やや広範囲にわたる散策のルートマップ	
25,000分の1 50,000分の1	・一般の地形図	約 15 km 約 30 km	市（町）の形や地形、土地利用、交通網などの概観	
200,000分の1	・地勢図	約 120 km	県全体のおおまかな地形	

＊電子地図の活用も有効です。

- ・画面上で縮尺を何段階にも切り替えることができます。
- ・紙の地図のような境目がないので、シームレスにスクロールができます。
- ・重ね合わせができます。

参考：「ウォッチず」（<http://watchizu.gsi.go.jp/>）

地形図をWeb上で閲覧することもできます。ただし、プリントアウトはできません。

＊古地図や旧版地形図を入手し、現在の様子と比較することにより、地域の変化を読み取る活動も有効です。

- ・市史、町史などが参考になります。
- ・国土地理院から、旧版地形図を取り寄せることができます。  
（インターネットでの注文もできます。）

＊衛星地図や航空写真から、土地の様子を視覚的にとらえることができます。また、年代の違うものが手に入ると、地域の変化がよく分かります。

- ・国土交通省がホームページ上でカラー空中写真（航空写真）を公開しています。【GISホームページ（<http://nrb-www.mlit.go.jp/WebGIS/index.html>）→「カラー空中写真閲覧へ」】
- ・福井県については、県内全域の昭和50年の写真を見ることができます。36年前の写真ということになりますので、児童・生徒の保護者が子どものころの様子を現在の様子と比べる活動などが考えられます。テキストの表紙もこのサイトの写真から作っています。 オススメです。

＊衛星地図や航空写真は、特徴的な地形の様子をとらえる際にも有効です。

- ・JAXA（宇宙航空研究開発機構）のホームページには、火山の活動による地形や、河川の作用による地形など、様々な地形の写真が掲載されています。ほかにも、災害の様子や世界遺産などを撮影したものなどもあります。（<http://www.sapc.jaxa.jp/gallery/index.php>）

＊土地条件図を利用すると、地形分類や地盤高などを知ることができます。ハザードマップなどの基になっている地図です。自然災害について扱う場合に有効です。昔の川の流れも分かるので、水害とたたかってきた先人についての学習などにも活かすことができます。